

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

|         |                              |            |            |
|---------|------------------------------|------------|------------|
| 事業所番号   | 4790500054                   |            |            |
| 法人名     | 社会福祉法人 善隣福祉会                 |            |            |
| 事業所名    | 認知症対応型共同生活介護事業所 愛誠園          |            |            |
| 所在地     | 沖縄県宜野湾市伊佐2-1-6グランドステージMG地下1階 |            |            |
| 自己評価作成日 | 平成23年11月19日                  | 評価結果市町村受理日 | 平成24年1月27日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="http://www.kai gokouhyou.jp/kai gos ip/infomationPublic.do?JGD=4790500054&amp;SCD=320&amp;PCD=47">http://www.kai gokouhyou.jp/kai gos ip/infomationPublic.do?JGD=4790500054&amp;SCD=320&amp;PCD=47</a> |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                    |  |  |
|-------|--------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社 沖縄タイム・エージェント  |  |  |
| 所在地   | 沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F |  |  |
| 訪問調査日 | 平成23年11月29日        |  |  |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日、和気あいあいとした雰囲気の中で、笑顔の多い生活が提供できるよう取り組んでいる。入居者も自分で出来る部分は自分でいき、出来ない部分は同居者、職員と助け合いながら、家庭的で安心した生活が送れるように過しています。毎朝のラジオ体操、レク体操を行い、元気ある毎日です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念は、職員が自然に口にする程浸透し、入居者の安心と生き活きた暮らしを支援している。開所時から勤務する職員を中心に、入居者個々の人格を尊重し、入室時の声掛けや排泄・入浴の対応等、プライバシーに配慮したきめ細かなケアが行われている。食事も入居者の力を発揮できるように支援しながら、毎食事業所で作り、入居者から「美味しい」と満足が得られている。事業所内は、明るく安全性や衛生面に配慮され、認知症を理解し、入居者が安心して過ごす事ができるような居室作りを支援している。また、毎月家族に対し入居者の状況を文書で知らせ情報の共有に努めている。地域との関係作りは、運営推進会議等で意見交換をしながら出来る事から取り組んでいる

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目   | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印   | 項目  | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印   |
|--|---|---|---|
| 56<br>職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)       | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらい<br>3. 利用者の1/3くらい<br>4. ほとんど掴んでいない | 63<br>職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19)   | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 57<br>利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)             | <input type="radio"/> 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                | 64<br>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                     | <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 58<br>利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                   | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 65<br>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) | <input type="radio"/> 1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くない            |
| 59<br>利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)    | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 66<br>職員は、生き活きと働いている<br>(参考項目:11,12)                                      | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 60<br>利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                  | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 67<br>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 61<br>利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:30,31)         | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 68<br>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 62<br>利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている<br>(参考項目:28) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  |   |   |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己                 | 外部  | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |  |
|--------------------|-----|---|--|---|--|
|                    |     |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |     |   |  |   |  |
| 1                  | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                            | 理念を玄関等に提示し全職員が共有しあい実践に取り組んで、理念を大切にしている。実践につなげるには難しいが職員全員が努力している。                     | 理念は、地域で入居者の尊厳と安心した暮らしの支援を目指して全職員で作成し、職員が自然に口にする程浸透している。職員は、入居者に対し配慮を欠いた言葉遣いや職員ペースのケアになっていると気付いた時は、理念に照らし合わせて対応を振り返る等で姿勢を改めている。    |  |
| 2                  | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している                            | 自治会に加入し行事等に参加している。納涼祭、敬老会等の行事に地域の方を招き交流を図っている。                                       | 事業所は自治会に加入して地域清掃や行事に参加し、事業所の行事には地域ボランティアが訪問し交流している。しかし、外人向け住宅階下の事業所は、地域住民との交流が得にくく、英文表示の案内や出入りし易いよう地下側に門を設けているが施錠されている。           |  |
| 3                  |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                          | 見学や電話相談に応じたりしている。地域の方々に貢献できるように取り組んでいきたい。  |   |  |
| 4                  | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている       | 3ヶ月～4ヶ月に1回に推進会議を開催。現状報告を行い、意見交換、情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。                              | 運営推進会議は、市担当者や家族、地域代表等が参加して4か月毎に開催している。会議では、事業所の活動状況等を報告しているが、事故等の報告には至っていない。外部評価後の課題についても意見交換し、地域との関係作りの環境整備や、体験学習の受け入れ等の助言を得ている。 | 運営推進会議の開催は、基準省令で2か月に1回以上となっており、定期的な開催が望まれる。また、会議へのヒヤリハットや事故報告等も運営の透明性を図る上で期待したい。 |
| 5                  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる                  | 市のグループホーム連絡会で情報交換を行ったり、必要時にはアドバイスを受けているが、日常的に行き来する機会を持つことができず連携につながる交流には至っていない。      | 市担当者に、運営推進会議で事業所の状況を伝えたり、市グループホーム連絡会でも定期的に情報を交換している。日頃は、認定や更新時に窓口で相談したり、電話で待機者の情報を得る等、入居に向けても連携している。                              |  |
| 6                  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束をしないケアを職員は十分理解し、取り組んでいる。日中の玄関は誰でも自由に出入りできるようにしている。                               | 「身体拘束排除宣言」や契約書等に「身体拘束その他行動制限の禁止」を明記し、入居時に家族に対しリスクと併せて説明している。職員は、研修や定例会等で拘束をしないケアを学び、言葉の拘束等がないか確認している。昼間、玄関は施錠していない。               |  |
| 7                  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている       | 研修等に参加し学ぶ機会を作りミーティングで報告し職員で共有している。虐待防止について職員は認識している。虐待が見過ごされる事がないよう、職員全体で虐待防止に努めている。 |   |  |

沖縄県(認知症対応型共同生活介護事業所愛誠園)

| 自己 | 外部  | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
|    |     |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している    | 権利擁護に関する資料は綴っており、理解するように努めていますが、特に勉強会は行っていません。                                 |  |                   |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                         | 入居前に利用者、家族に十分説明している。一旦、持ち帰ってもらい、納得した上で同意を得ている。不安や疑問点はいつでも気安く相談に応じられるよう配慮している。  |  |                   |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                     | 意見箱を玄関先に設置している。面会時や行事等に参加されて時に問いかけ、聞き取るように努めている。意見、要望があれば、ミーティングに話し合っている。      | 入居者の要望は、日頃のケアを通して直接話を聞いたり、職員間で情報交換し把握に努めている。家族の意見や要望は、訪問時や担当者会議等で聞いているが、アンケートの実施も検討している。家族から、事業所に看護職配置を望む声は母体法人へ伝えている。 |                   |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | 毎月のミーティングを実施し、職員の意見を聞くようにしている。個々の気づきがあればその都度、聞くようにしている。意見や提案は職員で話し合い運営に反映している。 | 管理者は、定例会や日常の業務の中でも職員の意見を聞くよう努めている。職員から勤務超過について意見があり、時間内の業務遂行に向けて検討し、役割分担の明確化や効率的な時間配分等で改善に繋げている。職員の勤務配置も希望を取り入れ編制している。 |                   |
| 12 |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 勤務希望を聞き各自、係や役割を持ちやる気をもっていけるようにしている。出来るだけ職員の要望を聞くようにしている。                       |  |                   |
| 13 |     | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 職場内外の研修等を推進しており又、資格取得に向けて、知識、技術の向上に取り組んでいる。研修後は報告をしてもらい全職員で共有をしている。            |  |                   |
| 14 |     | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 県、市グループホーム連絡会へ参加したり、他グループホームとの交流を持ちコミュニケーションを図り、質の向上を目指している。                   |  |                   |

沖縄県(認知症対応型共同生活介護事業所愛誠園)

| 自己                         | 外部  | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
|                            |     |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |     |  |  |  |                   |
| 15                         |     | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に事前訪問を行い面接を行う。何でも相談できる環境作り努めている。本人の思いや不安を受け止め本人と向きあって話しを聞くように心がけている。                                  |  |                   |
| 16                         |     | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている            | 家族、本人と話しをして、情報収集を行うことで本人に対する理解を深める努力をしている。今までの、経緯等をゆっくりと聞いたりコミュニケーションを図りながら、安心してなんでも相談できるように関わりを大切にしている。 |  |                   |
| 17                         |     | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている        | 家族との連絡を密に取り、入居されてからの状況を報告したり、要望を聞き家族が安心できる環境作り、信頼関係が築けるよう努めている。  |  |                   |
| 18                         |     | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                        | 個々の能力を活かしていけるように心がけながら、出来るところはやっていただき、役割を持たせ支えあう関係であるよう努めている。  |  |                   |
| 19                         |     | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている         | 面会時に話ができる機会を持ち、状況報告や要望等の確認を行っている。変化があれば、常に連絡している。共に支えていける関係作りに努めている。                                     |  |                   |
| 20                         | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                     | 職員と自宅訪問したり、馴染みの場所をドライブをして知人と会う機会を持つようになっているが、高齢化とレベル低下に伴い外出が難しくなっているのが現状である。家族にも協力を得ている。                 | 入居者の馴染みの関係性は、本人や家族、訪問する知人等から情報を得ている。入居者が暮らしていた地域の商店に出かけたり、入居者の育てた花卉や盆栽を見に自宅訪問等にも対応している。また、入居者が出身地域のミニデイサービスに継続して参加できるよう支援している。 |                   |
| 21                         |     | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                 | 入居者同士の関係作りが一番の安心と言う事を念頭におき、トラブルや話しがかみ合わない時には職員が中に入り話を聞くように努め、孤立しないような支援を行っている。                           |  |                   |

沖縄県(認知症対応型共同生活介護事業所愛誠園)

| 自己                                 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
|                                    |      |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                    | 契約が終了しても、入院時の面会、見舞いに行ったり自宅訪問をしている。家族の方もホームへ訪ねて来たりしてご縁を大切にしている。            |  |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |   |  |                   |
| 23                                 | (9)  | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 日常の関わりの中で入居者の言葉や表情の変化、思いや意向を把握し安心した生活ができるよう努め、職員全員で共有している。                | 入居者の思いは、日頃のケアの中で「島に帰りたい」や「ここがいい」等、会話を通して把握している。困難な場合は、入居者の表情や行動から推察したり、積極的に声かけし選択して貰う等の工夫や、家族の情報から把握に努めている。                        |                   |
| 24                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | 入居前の情報を把握し、本人、家族、関係者より情報の聞くようにしている。                                       |  |                   |
| 25                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 毎日のバイタルチェック、様子観察を行い、日々の関わりを職員同士で情報交換をし把握に努めている。                           |  |                   |
| 26                                 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 介護計画作成時には担当会議を持ち、本人・家族からの意見を聞き、介護計画に反映させている。毎月のミーティングの中で、職員の意見を聞いて作成している。 | 介護計画は、担当者会議で入居者や家族の意向と担当職員等の気づきを踏まえて作成している。家族から「他者交流」の要望があり、計画に外出支援(ミニデイ交流)を位置づけて支援している。毎月のモニタリングと3か月・6か月の見直しや状態の変化時は随時に計画を見直している。 |                   |
| 27                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 毎日の様子は介護日誌に記録してミーティングに話し合い、共有を図り介護計画の見直しに活かしている。                          |  |                   |
| 28                                 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | 必要に応じて病院受診を行ったり、家族のニーズに柔軟に対応している。   |  |                   |

沖縄県(認知症対応型共同生活介護事業所愛誠園)

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |   |
|----|------|--|---|--|---|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容                         |
| 29 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                     | 安心して地域のイベントの参加に努めているが、生活に活かせるまでに至っていない。   |  |   |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                 | 通院は原則、家族が行っている。入居者の病状にあった医療機関で受診している。必要に応じて記録を提供し診断の参考にしてもらっている。  | 入居者は、入居前からの馴染みの内科や、認知症専門医等を家族の支援で定期的を受診している。受診時は、個別ケア日誌やバイタル表を家族を通して医師へ情報提供している。受診後は、家族から報告を受け、申し送り職員間で共有している。               |   |
| 31 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                         | 体調を観察しながら、早期発見に取り組んでいる。かかりつけの病院へ連絡し、アドバイスを受けながら支援に努める。  |  |   |
| 32 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院した時は情報提供書を提出します。お見舞いをかねて、状況把握にも努めています。家族や病院関係者と情報交換を行いながら早期退院できるように支援しています。                           |  |   |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | ホームで対応できる範囲を明確にし、入居時に家族への説明をしている。状態変化時は本人・家族の意向を尊重しながら関係者間で連携し納得した最期を迎えられるようにと考えているが、体制づくり、取り組みは行っていない。 | 重度化や医療を要する場合は、母体施設や医療機関へ繋げる事を事業所の方針として、入居時に入居者や家族に説明し了解を得ている。管理者は、今後事業所での看取りを要望する場合には、意向に添いたいとの思いがあり、入居者や家族と話し合っていく事を検討している。 |   |
| 34 |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている   | 急変時には家族へ連絡して救急対応をしている。同法人にて救急時対応の勉強会を行いマニュアルの確認も行っている。  |  |   |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている   | 避難経路図を表示している。職員の周知徹底を行い、実際に入居者を避難誘導して訓練している。11月に夜間時の避難訓練を計画している。  | 避難訓練を11月に夜間を想定し、避難誘導や消火、通報訓練等を実施している。訓練時には、同建物内の住人1家族が参加し、車いす誘導の協力を得ている。災害に備えた備蓄については今後の課題である。                               | 災害時に入居者を安全に避難誘導できるよう、年に2回以上の避難訓練の実施が望まれる。 |

| 自己                               | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
|                                  |      |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |   |   |   |                   |
| 36                               | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                    | 言葉かけや対応は慎重に行い、人格を尊重しプライドを傷つけないよう心がける。   | 職員は、入居者が傷つく事や嫌な事は話題にしない、入居者一人ひとりが望む接し方を心がけている。職員は、入居者の居室へ入る時はノックする事、トイレや浴室のドアはきちんと閉める等、プライバシーへの配慮の徹底に努めている。           |                   |
| 37                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                      | 常に言葉かけを行い、言葉に出せるように問いかけに工夫し、自己決定を促している。自己表現出来ない方は思いをくみ取るよう努めている。                    |   |                   |
| 38                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 1日の生活の流れは決まっていますが、ラジオ体操、レクや行事等は本人のペースで参加したり見学したり、本人のペースを大切にしている。                    |   |                   |
| 39                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                   | 自分で決める方は自分のおしゃれを楽しみ、自分で選択出来ない方は職員が本人の着たい服等を聞きながら、それに応じた対応をして、その人らしい身だしなみを考慮している。    |   |                   |
| 40                               | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている      | 職員が入居者の状態に合わせて調理を行っている。レベル低下にて一緒に調理行う事は難しくなっているが出来る部分(もやしひげ取り・食器拭き食器洗浄)等を協力して頂いている。 | 食事は、毎食事業所内で作り、入居者は、野菜の下ごしらえや盛り付け、食器洗い等の場面で力を発揮している。入居者から「食事がとても美味しい」との声が聞かれ、職員も入居者と一緒に同じ食事を摂っている。年に2回は外食を楽しむ機会を作っている。 |                   |
| 41                               |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている           | 毎回の食事量、水分量を記録してその日の十分な栄養、水分量が摂取できるように支援している。ミキサー食にしたり、トロミをつけるなど、状態にあわせた個別の支援をしている。  |   |                   |
| 42                               |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                    | 毎食後必ず歯磨き、義歯洗浄の声かけ、見守り、介助を行っている。義歯の方は入眠時には洗浄剤対応を行う。必要時には家族と相談をして訪問歯科受診につなげる事もある。     |   |                   |

沖縄県(認知症対応型共同生活介護事業所愛誠園)

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                                    |
|----|------|--|--|--|------------------------------------|
|    |      |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容                  |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている                             | 日中に限り全入居者はトイレで排泄を行い、排泄のパターンを把握し定期的に声かけをしている。日中は布パンツ、夜間には紙パンツ使用し、自立に向けた支援をしている。                 | 排泄チェック表を活用して入居者個々の排泄パターンを把握し、適宜トイレでの排泄を促している。入居時リハビリパンツ使用の入居者が、トイレでの排泄を誘導して支援し、布パンツ着用に移行している。失敗時は、自尊心を傷つけないよう配慮している。     |                                    |
| 44 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる   | 排泄チェックを行い、水分補給もこまめに行い、食事面にも配慮している。主治医から処方された便秘薬も使用している。毎日の申し送りで全員の排便状況を確認している。                 |  |                                    |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている                            | 基本的には1日おきの午前中と決まっているが無理意地はせず、身体状況によっては毎日の入浴、本人の体調、希望、必要時に合わせて入浴を行っている。                         | 入浴は隔日を基本としているが、入居者の希望に沿って毎日の支援も可能にしている。入浴は、入居者の不足などを介助し、入浴後は、クリームで皮膚の乾燥を防ぎ、足の指の間をドライヤーで乾燥させる等、細やかなケアで対応している。入浴拒否はみられない。  |                                    |
| 46 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している  | 好きな時間に自由に休んで頂いている。高齢者ということを配慮し昼食後の30分～1時間は休息の時間を設けている。   |  |                                    |
| 47 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている   | 薬の内容、目的、副作用を理解するため個々の薬セット容器に説明書を貼り付けてある。薬の用量、追加、変更があった場合には申し送りで共有する。症状の変化については、他の変化同様確認に努めている。 |  |                                    |
| 48 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                            | 洗濯物量み、お茶のパック詰め、等の出来る事をして頂き、生き生きとした張り合いのある生活、笑顔の多い生活を目指して支援に努めている。                              |  |                                    |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 一人ひとりの希望の外出に添えるのは困難であるが、天気の良い日等には気分転換に散歩を促す。家族の協力も得ている。  | 定期的にドライブや食事に出かけ、入居者が、「海老を食べに行きたい」と希望した時や旧盆や正月は、家族に協力を求め個別の外出支援に繋げている。入居者は時々食材の買い物に出かけたり、テラスに出て外気浴を行っているが、日常的な散歩等の機会が少ない。 | 入居者が、日常的に外出ができるよう、散歩等への取り組みに期待したい。 |



沖縄県(認知症対応型共同生活介護事業所愛誠園)

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|------|--|--|---|-------------------|
|    |      |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | ほとんどの方がお金の管理ができない為、お金は持っていません。お金を持っていないと不安になる入居者には使う目的はないが、持っている方が1人いる。必要時には家族へ連絡しています。        |   |                   |
| 51 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 電話がかかってきた時もかける時も支援できる体制はあるが、電話をしたいと言う訴えはない。毎年、年賀状、暑中見舞いを書いてもらい、書けない方は代筆支援を行っている。               |   |                   |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビングが共同空間になっています。照明やテレビの音量にも配慮し、居室にも十分光が入り落ちつける環境作りに努めている。気候や外気温によって空調等で温度調節を行い身体に負担のないようにします。 | 事業所は、表通りから1段下がった地下に位置しているが、中は明るく広い空間になっている。対面式のキッチン、調理しながら入居者の様子が把握でき、調理の匂いや音が食欲増進効果となっている。浴室の脱衣所は、冬場はヒーターで室温調整をしている。 |                   |
| 53 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | リビングにて本を読んだり、テレビを観て各自思い思いに過している。自分達で作った作品を展示したり、ホールの所々に椅子を置いて、好きな場所で過せるよう工夫している。。              |   |                   |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 入居時に馴染みの物の持ち込みをすすめている。家族、本人の希望により自宅から持ってきたテレビ、家具等が置かれ個々に合った部屋作りを行っている。                         | ゆとりのある居室には、作りつけの収納とベッドが備え付けてあり、入居者は、テーブルやソファ等を持ち込み、壁には、家族の写真等を飾る等居心地良く過ごせるよう工夫している。認知症の症状に配慮し、室内の環境が整えられている。          |                   |
| 55 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | すべてバリアフリーでホール、浴室、トイレに手摺りを設置し、場所が解りやすいように文字で表示してある。歩行に邪魔にならないよう配慮している。                          |   |                   |